

小さな群れ

カトリック美唄教会

2022年6月 No.301

2022年5月29日発行

主任司祭 ナルチゾ神父

イエスのみ心

6月24日イエスの聖心と25日聖母の聖心のお祝いです。

イエスのみ心の祭日は、本来「キリストの聖体」の祭日に続く金曜日に祝います。

“イエスのみ心”への信心は、17世紀にフランスで聖マルガリタ・マリア・アラコックが、神から啓示を受けたことから始まりました。その噂は瞬く間にフランス中に拡散しました。その後1856年、教皇ピオ9世はローマ教会全体で“イエスのみ心”を祝うように制定しました。また、この日を契機にフランスや他のキリスト教国では、“聖心”（みこころ）名を付けた修道会が沢山誕生しました。この祭日を祝う目的は、神様の愛をイエスの愛と献身を通して与える“イエスのみ心”に敬い讃えることなのです。



キリストの聖体とみ心の祝日を例年6月にお祝いしていたことから、6月は「イエスのみ心の月」として、自然に定められたと伝えられます。教皇ベネディクト16世は、書簡の中（2006年5月15日）で次のように記しています。

「槍で刺し貫かれたイエスの脇腹を礼拝しながら観想することにより、わたしたちは、人びとを救おうとする神のみ旨を感じることができるようになります。・・・『槍で刺し貫かれた脇腹』の内に神の限りない救いのみ旨が輝いています。ですから、この脇腹を仰ぎ見ること（み心の信心）を、過去の礼拝ないし信心の形と考えてはなりません。

刺し貫かれた心という象徴に歴史的な信心の表現を見いだした神の愛の礼拝は、神との生きた関係にとって不可欠なものであり続けます」と。

また教皇フランシスコも『『疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい』（マタイ11:28-29）。・・・『一人の兵士が槍でイエスの脇腹を刺すと、そこから血と水とが流れ出ました』（ヨハネ19:34)。ヨハネは、偶然的に見えるこのしるしのうちに、預言の成就を認めました。十字架上の生贄の小羊であるイエスのみ心から、人類全体に対する“ゆるしといのち”があふれ出るのです。

しかし、イエスのあわれみは単なる感情ではありません。それは、いのちを与え、人間をよみがえらせる力なのです」と言われました。



み心の信心は、教会において大切な泉であり、キリスト教の中心的信心であると言っても過言ではありません。この“イエスのみ心”の限りない愛に対して、私たちの出来得る可能な限りの愛で応える信心の目的を日々の生活の中で実践して、このみ心の月を大切に過ごしましょう。（Laudate 参考）

2022年6月 主日ミサ・平日のミサ 予定

美唄教会 小さな群れ
2022年6月 No.301
2022年5月29日発行

今月は、みこころの祈り.

日	曜	ミサ		各種勉強会	会議・その他事項
		主日・祭日	時間		
3	金		午前 10:30	ミサ後 聖書に親しむ	
5	日	聖霊降臨の主日	午前 11:00		
10	金		午前 10:30		
12	日	三位一体の主日	午前 11:00		
15	水		午後 6:00	ロザリオ会	
17	金		午前 10:30	ミサ後 聖書に親しむ	
19	日	キリストの聖体	午前 11:00		
24	金	イエスのみ心	午前 10:30	ミサ後 聖書に親しむ	
26	日	年間第13主日	午前 11:00		

《 平日のミサ 》 **金曜日のみ 午前 10:30** 3・10・17・224日です
《 聖書を親しむ 》 平日のミサ後、旧約聖書に親しんでみませんか。

霊名の祝日			清掃当番	花 当番
18日	ユリアナ	山内 敦子	第2週 東 ウッケッドウ恵美	船 野
24日	パウラ	小川 知子	第4週 幼稚園	
24日	洗礼者ヨハネ	三間 英司		
29日	ペトロ	小川 真		

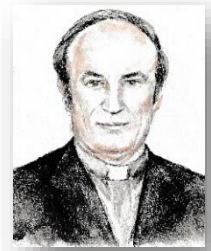
【お知らせ】

◎ウクライナ危機人道支援緊急募金¥33,000 をカリタスジャパンへ送金しました。

ナルチゾ神父様へ

ジェイムズ・マッキンタイア

3年間お世話になりました。2年くらい神父様と一緒に侍者ができたことはとても嬉しい思い出です。神父様から色々と学ぶことができました。もちろん神父様のご説教は知恵に満ちてとても勉強になりますが、神父様を間近に見ることで色々と勉強することができました。



神父様からは毎日を大事にするということを学びました。神父様はいつも明日がある保証はないからやるべきことを今やりなさいとおっしゃいます。分かっていることでも実行することはとても難しいです。しかし、その言葉を何回も聞いているうちにそれがただの神父様の人生論だけではなく、聖書に書かれてイエズスが私たちに言っていることだと分かりました。毎日を大事にしてその日の課題にしっかり向き合えるように頑張りたいと思います。

感謝の気持ちを大事にして全てのことに感謝する、ということも神父様から学びました。思う通りにならないことを感謝することは難しいです。何でも感謝しなさいと言われても怒ったり、がっかりしたり素直な気持ちを出してはいけないと思ってしまうのですが、きっと神父様がおっしゃっていることの意味がもっと深いような気がします。感謝するということは全てのことの良いところを見つけ出すということだと思えます。それができるときっと幸せになるでしょう。

何より神父様を見ていると一番感動したことは、神父様の生き様です。一週間に一度しかお会いしませんが、神父様が一つの生き方を貫いている姿がとても素敵でその姿に力づけられます。私は美唄市に来た時に新しいところで新しいことをすることはとても楽しみでわくわくしていました。しかし、美唄が私のイメージと違い、仕事も期待に至らず、美唄に来ることを後悔したことはしばしばありました。



美唄に来るまでは、私がいつも夢を持っていました。その夢は実現しないことが多かったですが、「こうやりたい」ということが私の中に常にありました。しかし、美唄に来ると本当に何がしたいのか、何をすべきなのかが分からなくなり、長い時間悩みました。その中で私の生き方に向き合わされました。若い時に「いつかこうなりたい、いつかこれをやりたい」と将来のことを想像していましたが、

20代後半に入ると「いつか」が言えなくなります。「今」何をするかという問いに答えられなかったことはとても不安でした。

しかし、神父様のご説教でおっしゃっていました。ある若い神父様が教会の信者さんに聖書のことを教えようと思って聖書をたくさん買いました。しかし、毎日聖書のことを教えようとしたら、信者さんに呼ばれたり、子供にあったりして、聖書を教えることができませんでした。その説教を聞いた時に分かりませんでした。今となればその意味が分かります。やはり私たちのやるべきことは目の前のことです。毎日の課題に一生懸命に取り組むことが私たちに求められることで、その毎日の積み重ねが大きなことになっていきます。ですから、毎日一生懸命に生きないといけません。今後は兵庫県の豊岡市に行きますが、その後も日本にいます。日本にやるべきことがあるように感じるからです。日本の子どもたちに夢を与え学校教育の改善に努めたいと思っています。その後、日本をよくするために力をつくしたいです。しかし、それは「今日」のことから始めますよね。そのためにもっと美しく生きるようにしたいと思います。

神父様から色々と人生について学べたことに感謝しています。ありがとうございます。まだ未熟な私ですのでこれからも勉強しながら神父様から学んだことをちゃんと実行出来るように頑張ります。

私のためにお祈りください。
ジェイムズ・マッキンタイア